

琵琶湖愛知川河口沖の洪水起源の堆積物 Flood sediment off rivermouth of Echi-gawa, Lake Biwa, Japan

井内 美郎¹, 里口保文², 中村祐貴³, 村越 貴之⁴, 橋本 岳^{5*}

Yoshio Inouchi¹, Yasuhumi, Satoguchi², Yuki, Nakamura³, Takayuki Murakoshi⁴, Gaku Hashimoto^{5*}

¹ 早稲田大学 人間科学学術院, ² 滋賀県立琵琶湖博物館, ³ 東京大学大気海洋研究所, ⁴ 早稲田大学大学院人間科学研究科,
⁵ 早稲田大学人間科学部

¹Faculty of Human Sciences, Waseda University, ²Lake Biwa Museum, ³Atmosphere and Ocean Research Institute, ⁴Graduate School of Human Sciences, Waseda University, ⁵School of Human Sciences, Waseda University

琵琶湖南東部愛知川河口沖で重力式柱状採泥器を用いて湖底堆積物を採取し、含水率、粒度、全炭素・全窒素濃度を測定した。その結果、ハイパーピクナイト類似の特徴を持つイベント堆積物を見出したので、報告する。

調査は2011年9月12日に行い、採泥地点は愛知川河口約1.5km沖の2地点で、B3(50cm)、B4(69cm)の2試料を得た。含水率は厚さ1cm毎に、粒度は厚さ5mm毎に、全炭素・全窒素濃度は厚さ5mm毎に測定した。

測定の結果、軟X線写真の暗色部で含水率が低く、粒度が粗く、元素の値が低いイベント堆積物が認められた。各イベント堆積物には、逆級化に始まり正級化に終わる、粒度のピークが1回もしくは複数回ある、植物片を含む、といった特徴が見られた。

B3コアの植物片から得られた炭素14年代は、50-100年BPという結果であり、今回得られた試料は過去約100年程度の堆積物であると推定される。この期間の大きな洪水イベントとしては、1896年(明治29年)の琵琶湖大洪水や1917年(大正6年)の大正大洪水などがあり、今回採取されたイベント堆積物の中には、それらに相当する堆積物が含まれているものと考えられる。

キーワード: 琵琶湖, 洪水堆積物, ハイパーピクナイト

Keywords: Lake Biwa, flood sediment, hyperpycnite